

式第2号の1 (第3条関係)

推 薦 書

叡啓大学 収受	
第	号
6.10.22	
処理期限	月 日
分類記号	保存年限

2024年10月16日

叡啓大学学長選考会議議長 様

推薦代表者

学部等・職名 ソーシャルシステムデザイン学部 教授

氏 名 川 瀬 真 紀

私は、本人の同意を得て、次の者を叡啓大学学長候補者の選考対象者として推薦します。

(ふりがな) 氏 名	(ありのぶ むつひろ) 有 信 睦 弘
現職名又は最終職名	広島県公立大学法人副理事長 叡啓大学学長
推薦理由 有信氏は、東芝の研究センター所長や理化学研究所理事等での経験に裏打ちされた研究に対する深い造詣や、東京大学副学長として培われた卓越した大学運営の手腕、さらには、文部科学省中央教育審議会 大学分科会 将来構想推進部会委員等の要職を歴任されるなど、これからの高等教育に関する高い見識を兼ね備えた人物である。 叡啓大学の開設に当たっては、広島県設置の有識者会議メンバーとして、構想段階から関与され、設置段階においても、人員が限られる中、多岐にわたる開学準備に多大な御尽力をいただいた。学長就任後は、学生の成長を一義に、教育課程や教員組織の編成をはじめ、志願者・留学生の確保、海外交換留学協定校・プラットフォーム協議会参画団体の拡大、インセンティブ制度等を通じた研究の推進、きめ細やかな学生支援などの実現に際し、大いにリーダーシップを発揮され、過去に前例のない「新たな教育モデル」を実践する叡啓大学の礎を築かれた。 来年度からは、次期中期計画(第四期)期間へ移行し、大学の更なる発展・深化が求められる中、有信氏の主導の下、全ての学生・教職員を巻き込んで策定された『叡啓大学中期ビジョン・アクションプラン』の具体化が課題となる。 こうした困難を伴う重要な時期の学長として、人格高潔で学識に優れ、大学・法人双方の運営・管理能力に秀でた能力を有し、教職員からの信頼も厚い有信氏のリーダーシップに引き続き期待するところであり、教職員5名の連名により、次期学長候補者に推薦する。	